

環境経営レポート

2024年版

(対象期間2024年1月1日～2024年12月31日)



株式会社 山中商会

〒323-0824 栃木県小山市雨ヶ谷新田71-37

[電話] 0285-27-5368

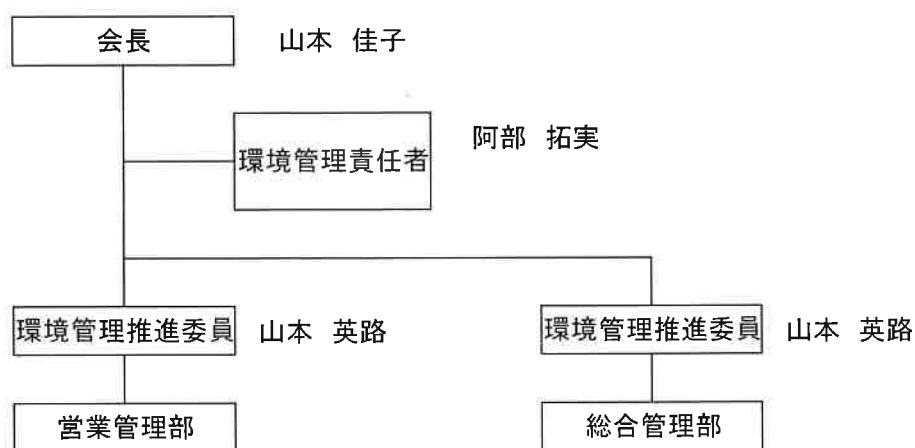
[FAX] 0285-27-9703

作成日 2025年 3月 14日

1. 事業の概要

- ・ 事業所名 株式会社山中商会
- ・ 代表取締役会長 山本 佳子
- ・ 所在地 栃木県小山市雨ヶ谷新田71-37
- ・ 環境管理責任者 阿部 拓実
- ・ 連絡先 電話 0285-27-5368
FAX 0285-27-9703
- ・ 事業内容 梱包・包装資材及びワイヤーハーネスとその部材の販売
- ・ 事業の規模 資本金 1,000万円
売上高 31億円(2024年 実績)
社員数 32名
敷地面積 5,340㎡

・ 組織図



合計32名

2. 対象範囲

当社は全ての組織、活動を対象としている。

3. 環境方針

環境経営方針

《基本理念》

株式会社山中商会は、地球環境の保全が、人類共通の最重要課題であることを認識し、豊かな未来社会の実現に向けて、地域社会と人に優しい事業活動を営み、環境保全に配慮し、全ての人の健康維持に努めます。

《環境経営方針》

1. 当社は、環境配慮型の製品を通して、積極的に地球環境保全に貢献致します。
2. 当社は、事業活動に関わる環境法令・条例・協定及び当社が同意するその他の要求事項を遵守致します。
3. 当社は、地域環境に根ざした企業活動を通じ、経済並びに環境保全の維持、改善を行います。

《重要取組事項》

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. Non-VOC製品の継続開発 | (環境配慮型製品開発) |
| 2. CO2排出量の削減 | (省エネルギー活動) |
| 3. 廃棄物排出量の削減 | (ゴミの分別、リサイクル運動実施) |
| 4. 排水量の削減 | (水の使用方法の改善) |
| 5. エコ活動への参加 | (地域清掃活動への参加、社内緑化推進) |
| 6. エコ商品の購入 | (グリーン調達) |

2020年1月1日 改定

株式会社 山中商会

代表取締役会長 山本 佳子

4. 環境目標

取組事項	2020年基準	2024年目標	2025年目標	2026年目標
売上高(億)当りのCO2排出量の削減(kg-CO2/億円)	2,920	2,847 (基準比2.5%削減)	2,832 (基準比3%削減)	2,818 (基準比3.5%削減)
廃棄物排出量の削減(kg)	2,000	1,930 (基準比3.5%削減)	1,920 (基準比4%削減)	1,910 (基準比4.5%削減)
水使用量の削減(m3)	240	238	238	238
グリーン購入の推進対象品目	35品目	39品目	39品目	40品目
環境配慮型製品ソフミンの販売	2,000箱	2,150箱	2,200箱	2,250箱

*電気の二酸化炭素排出係数は平成30年度公表の東京電力の0.462を使用している。

*化学物質の目標は、家庭で使用するような洗剤等のみでPRTR法で定める化学物質の使用が無いので、設定していない。

*グリーン購入の推進は、業務で使用する環境配慮商品の購入品目数を目標としている。

*ソフミンは自動車用ハーネス保護のテープ状の消音材で耐久性に優れ、軽く、また、取り付け作業性が良い特長を持っている。

*2014年基準、目標を全体的に変更・見直しを致しました。(2020年改定)

5. 環境活動計画の内容

(1) 二酸化炭素排出量削減の取組

① 電気

- ・事務所エアコンの適正温度設定(作業への影響を見ながら、冷房25℃以上、暖房22℃以下で調整する)
- ・会議室、トイレ未使用時の照明消灯
- ・事務所の不在の場所は消灯する。
- ・長時間離席時のパソコン本体の電源OFF
- ・なるべく残業はしないようにする
- ・倉庫作業不使用時は消灯
- ・PVCテープの保管庫のエアコン使用は品質保持が出来る(10℃～20℃)での範囲内に温度設定をする
と共に保管製品を限定してエアコン使用台数を減らす。
- ・常に整理整頓を行い無駄な作業の削減を心がける

② ガソリン・軽油

- ・ハイブリット車への切り替え検討の継続
- ・メーカーから客先への直送の拡大(可能品を検討し、関係先とも協議しながら進める)
- ・ゆっくり発進、ゆっくり停止、アイドリングストップ、空ぶかしをしないなど省エネ運転を励行する
- ・配送ルート of の最適化を検討しながら配車する
- ・フォークリフトから離れる場合は必ずSW、OFFにしアイドリングしない
- ・長距離出張の場合は出来るだけ電車利用を心がける

(2) 廃棄物削減の取組

- ・コピー用紙裏面利用
- ・使用済みコピー用紙の再利用(シュレッダー後、製品出荷時の緩衝材として利用)
- ・分別の徹底と廃棄物の計量
- ・過剰梱包の廃止(購入先へ依頼)
- ・仕入先への簡易梱包等、過剰な包装とならないことを依頼し、ゴミの減量を図る
- ・木製パレットのメーカー引き取りの強化(可能なものは納品時に自社のプラパレに移し替えてもらう)
- ・木製パレットで燻蒸処理済みのものに関しては、海外出荷用として保管し再利用する。

(3) 水使用量削減の取組

- ・水の出っぱなしは厳禁
- ・必要以上に水は出さない
- ・トイレの一回流しの励行
- ・外の清掃の際に、水で洗い流すことはしない
- ・節水シールでの喚起

(4) グリーン購入への取組

- ・エコマーク商品等の環境配慮商品の購入の推進
- ・再利用、詰め替え可能消耗品の優先購入
- ・購入状況の記録

(5) 環境配慮商品 ソフミン及びnon-VOCテープの販売促進

- ・メリットのPR等による営業推進
- ・多用途への展開可能性の検討

(6) その他

- ・整理・整頓・清掃活動の推進
- ・花壇の手入れの推進
- ・外部講師による社内勉強会の継続
- ・環境関連の展示会・セミナー・講習会などに参加、また他社の環境への取組の見学

6. 環境目標の実績

取組事項	2020年基準	2024年目標 2024年1月～12月	2024年実績 2023年1月～12月	達成状況
売上高当たりCO2排出量の削減 (kg-CO2/億円)	2,920	2,847 (基準比2.5%削減)	2,402 (目標比18%削減)	達成
廃棄物排出量の削減(kg)	2,000	1,930 (基準比3%削減)	1,928 (目標比1%削減)	達成
水使用量の削減(m3)	240	238	310	未達成
グリーン購入の推進	35品目	39品目	40品目	達成
環境配慮製品 ソフミン	2,000箱	2,150箱	4,081箱	達成

*2014年基準、目標を全体的に変更・見直しを致しました。(2020年改定)

※二酸化炭素排出量の推移

	2014年	2022年	2023年	2024年
CO2—kg	150,309	78,842	83,971	74,488
電気の排出係数	0.531	0.462	0.462	0.462

※ 2019年度以降の実績は、平成30年度公表の東京電力の調整後の排出係数0.462を使用した。

※ 2018年度以前の実績は、排出係数0.531を使用した。

7. 環境目標の達成状況、取組状況の評価と今後の取組

(1) 二酸化炭素排出量の削減

電気使用量は前年比より2%減少、化石燃料に於いては使用量は9%増加しましたが、目標達成出来た事は評価していいと思われる。これらはCO2削減呼掛け効果とトラック輸送などの削減効果がおおきいと思われる。次年度に於いても成果を挙げられるよう新たな取組が必要と思われるので、使用者各人の使用状況を確認し、改善策を模索し、尚一層の努力が必要かと思う。

ガソリン・軽油は昨年度より20%減少しているので、さらに遅れているハイブリット化に付いても業績を見ながら積極的に進めて削減効果を上げる方向に持っていきたい。

電気使用量では、テープ保温時期を早めたので昨年より30%増加となったので、次年度に於いても外気温をよく調べ暖房時間の短縮に取り組む必要があるが、テープの不良を防ぐ様に努める。

(2) 廃棄物の削減

廃棄物については、前年比に対して109%削減しました。

目標1,930kgに対して1,928kg、1%削減出来ました。

廃プラスチック類(ビニール等)1,490kg 一般廃棄物438kgでした。

売上に左右されづゴミの減少に努めたい。

今後については、適正在庫数・入庫数の見直しを図り、滞留品などの産廃の減少・減量に取り組む必要がある。

(3) 水使用量の削減

水使用量については、前年比に対して使用量は16%増加になりました。目標238m³、実績310m³、目標値に対して30%増加と良い結果を残せなかった。

未達成の要因として考えられるのは、2か所の水道蛇口が開いていた事が要因と思われる。

2025年度では、水の使い方について資料などで回覧で周知するように努める。

各倉庫の床を水洗い清掃や夏場の散水を年間数回減らすように努める。

水道の蛇口を取外し可能にする。(仕事終わりに蛇口を取外す。)

(4) グリーン購入の推進

目標は達成しているが、まだまだ不十分な様に思えるので現業部門での購入品に於いても価格との兼ね合いも見ながら、今後もグリーン購入を引き続き進めていきたい。

(5) 環境配慮商品ソフミンの販売推進

ソフミンについては、目標2,150箱に対して4,081箱、89%増加とよい結果を得る事が出来た。

今後は販売量が増える傾向にあるものと思われるので引き続き進めていきたい。

(6) その他

今年度も昨年に続き事務所や倉庫の整理・整頓・清掃活動も定着してきたので、今後は適正在庫・入庫の見直しを図り、倉庫全体の有効活用する必要がある。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等

法 律	対 象	確 認
廃棄物処理法	産業廃棄物・一般廃棄物	産業廃棄物は法基準に従い適正に処置 一般廃棄物は適正に処置
消防法	消火器の設置	適正に配置している
下水道法	生活排水	問題となる排水はなし
フロン排出抑制法	対象フロン使用のエアコン	簡易点検実施、問題なし
九都県市条例	対象地域のディーゼル車の通過	問題なし
家電リサイクル法	対象家電	廃棄はなし
顧客の要請	商品(有害物質非含有)	メーカーに確認、問題なし

(2) 違反、訴訟等の有無

2025年2月27日に遵守状況をチェックした結果、環境関連法規制等への違反はありませんでした。

また、関係機関からの指摘も過去からありません。同様に訴訟・苦情等もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 環境方針	・方針を変更するべき点はなく、引き続き現状の方針を継続する。大事なことは、方針に基づいて、これを具現化して、行動することである。
2. 環境目標と環境活動計画	・引き続き、目標低減にむけて会社一丸となって努力していきます。 ・産業廃棄物削減、二酸化炭素の排出を重点的に計画していきます。 ・納期管理を徹底し、必要な物を、必要な時仕入れる工夫する。 ・水使用に関しては、外部の散水栓をカギ付きの水栓に交換する。
3. 達成状況	・ ウェブ会議の活用や、直送化により大幅に燃料使用量を減らすことが出来た、このことを踏まえメーカーからの直送化を拡大する事の大事さが見えてくる。 我々商社にとって如何に輸送コストを削減するかは、直接利益に結び付くので直送拡大を今後も進めていく事が大事である。 ・ 本年度は長期休暇中にイレギュラー的に外散水栓解放により、水が多く使用になった。 ・ 今後も廃棄物全体の削減に力を入れて行く事が大事である。
4. 環境経営システム	・大枠としてシステムとしての変更の必要はない。このシステムを運用することの意味をよく考えて、社会的責任を含めた経営上のメリットを追求していくことを肝に銘じ、各部門間でよく摺り合わせて、全員が一丸となって運用を進めること。

10. 地域貢献活動

・構内美化活動

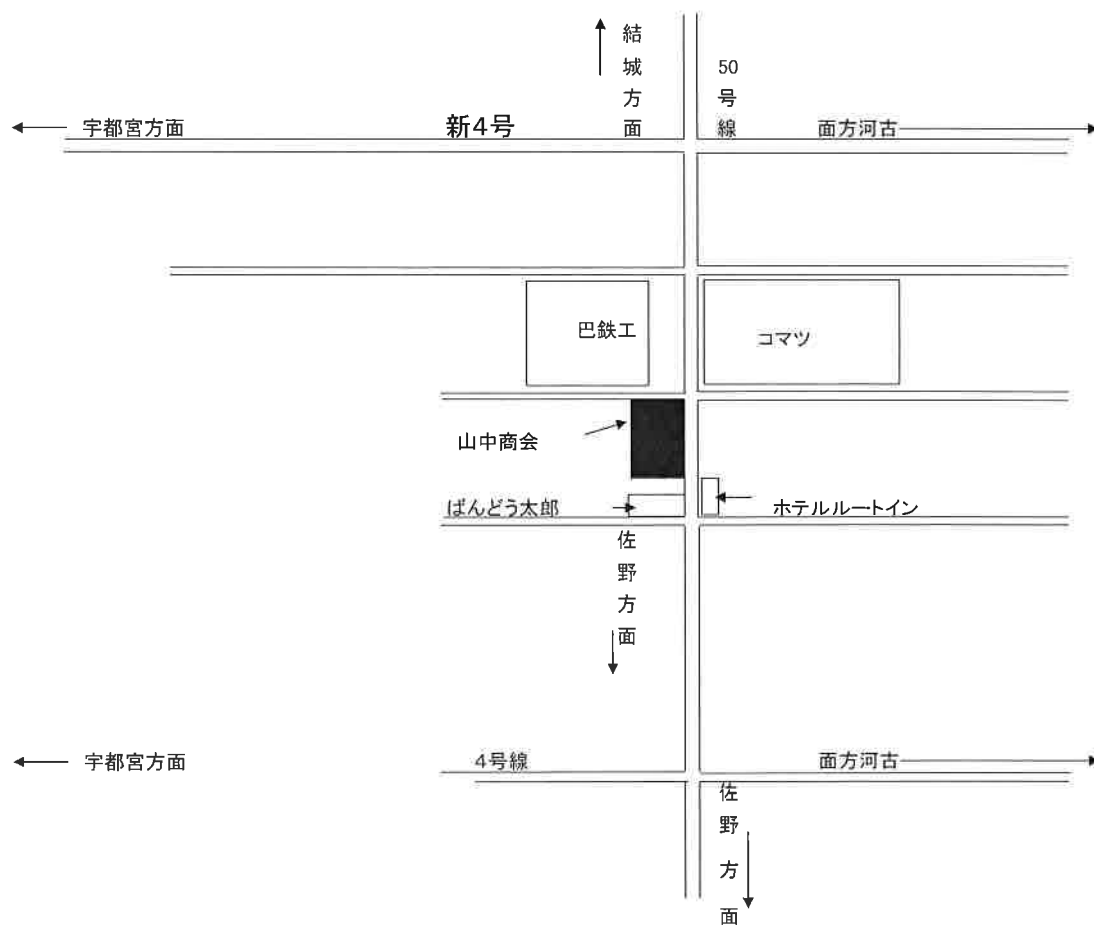
構内の花壇や整備活動を行っている様子です。



・地域清掃活動

地域貢献活動の一環として周辺道路の清掃活動を行っている様子です。





〒323-0824

住所、 栃木県小山市雨ヶ谷新田71-37

TEL、 0285-27-5368

FAX、 0285-27-9703